

市民ワークショップで提案された成果指標(第一次検討表)

施策名	かけがえのない自然との共生		現行成果指標	①市民アンケート調査「自然が守られていると思う」と答えた市民の割合			施策統括マネージャー	伊藤環境部次長
	対象	意図		自然環境を守り、次世代に引継ぐ	A 有効性	B 技術性		
ワークショップで提案された成果指標			付箋番号				特記事項	
1	盛岡の自然に生息する生物の名前を覚えている数	②	×	△	ウ	「盛岡の自然に生息する生物」の定義が難しく、成果指標としての有効性は低い。		
2	近郊自然歩道をめぐるウォークラリーへの参加者数	④	△	△	ウ	現在はウォークラリーを実施してしないため、その実施について検討したい。		
3	景観のフォトコンテストへの参加者数、応募数	⑤	△	△	ウ	現在はフォトコンテストを実施していないため、その実施について検討したい。		
4	フォトコンテストの展示会への来場者数	⑤	△	◎	ウ	フォトコンテストの参加者数と比較すると有効性は低い。		
5	河川のゴミ拾いのボランティアへの参加者数	⑥	△	×	ウ	特定のイベントの数値は把握できるが、市全体のボランティアへの参加数の把握は困難である。特定のイベントの数値の把握のみでは成果指標として適さない。		
6	盛岡の自然の保護活動実施件数	⑥	△	×	ウ	特定の活動の件数は把握できるが、自然環境活動を実施している全ての団体の把握は困難である。特定の活動に係る数値の把握のみでは成果指標として適さない。		
7	盛岡の自然環境情報の全国への発信数	⑦	×	×	ウ	単に行政情報の発信数というだけでは有効性は低い。		
8	広報もりおか等での自然環境テーマの掲載回数	⑦	×	×	ウ			
9	近郊自然歩道の案内表示等の設置数	⑧	△	◎	イ	事務事業「近郊自然歩道整備事業」に係る成果指標のアイデアとして採用する。		
10	社会科見学(間伐等)に参加する人の数	⑩	×	◎	ウ	造成林の管理に係る事項は、自然環境保全の指標としては有効性が低い。		
11	社会見学(間伐等)の実施回数	⑩	×	◎	ウ			
12	間伐材等(伐期未到達樹木)の活用件数	⑪	×	×	ウ			
13	間伐実施回数	⑪	×	◎	ウ			
14	間伐を実施した面積の割合(間伐面積/市内の森林面積)	⑪	×	◎	ウ			
15	間伐・植林等の実施数	⑱	×	△	ウ	市街地の立木数等は、自然環境保全の指標としては有効性が低い。		
16	市街地の立木の数、剪定済の数	⑬	×	×	ウ			
17	アンケートで「盛岡の街の自然がよくなった」と答えた人の数	⑬	△	◎	エ	現行成果指標の推移の把握によりカバーしたい。		
18	緑地面積	⑯	△	◎	エ	基本事業において「市域における山林・農地等面積」を成果指標としており、この推移の把握によりカバーしたい。		
19	近郊自然歩道を訪れる人の数	⑰	◎	×	ウ	対象が広く、数値の把握が困難である。		
20	市民の知っている保存樹木の数	⑰	×	△	ウ	身近な保存樹木と深く親しむこともひとつのあるべき姿であることから、数を問うことの有効性は低い。		
21	登山者数	⑱	△	×	ウ	対象が広く、データの把握が困難である。		
22	指定登山ルートの利用者数	⑱	△	×	ウ			
23	動植物の数(個体数)	⑲	×	×	ウ	「個体」の定義が難しく、数値の把握も困難である。		
24	盛岡の河川の水質の全国での順位	⑲	△	×	ウ	全国順位の把握は困難である。		
25	予算削減額(不必要な事業を実施しない)	22	×	◎	ウ	公共事業の削減が必ずしも自然環境保全と合致するとはいえず、有効性は低い。		
26	自然環境の保護に関する他市町村との協働事業数	23	×	△	ウ	他市町村との協働事業が施策の達成には結びつかない。		
27	アンケートで「盛岡の景観が良い」と答えた旅行者の数	施策	×	△	ウ	対外的なアピールが施策の達成には結びつかない。		
28	市民1人あたりが市内の自然に触れた時間	施策	△	×	ウ	設問が主観的であり、数値の把握も困難である。		
29	自然体験・保護活動への参加者数	施策	△	◎	エ	事務事業「地区等自然環境保全事業」において、「保護庭園「一ノ倉邸」を訪れた市民の数」及び「岩手公園の自然を訪ねる会に参加した市民の数」を成果指標としており、この推移の把握によりカバーしたい。		
30	自然体験・保護活動の満足度	施策	×	△	ウ	個人の満足度は、自然環境保全の指標としての有効性は低い。		
31	自然体験・保護活動へのリピーター率	施策	×	◎	ウ	参加者数の固定化という側面にもつながることから、有効性は低い。		
32	アンケートで「まちなかで前年以上に『四季を実感した』」と答えた人の数	施策	×	△	ウ	主観的な要素が強いため、成果指標としての有効性は低い。		
33	企業の環境保護活動参加社数	施策	△	△	エ	盛岡市地球温暖化対策実行計画において、「環境報告書を作成する企業の数」を進行管理指標としており、この推移の把握によりカバーしたい。		
34	環境活動への参加者数、環境活動への参加団体数	施策	◎	△	ウ	「環境(保護)活動」の定義等について精査を行いながら指標化について検討したい。		
35	野の花美術館への訪問者数	その他	×	◎	ウ	自然環境保全という観点において有効性は高いとはいえない。		
36	川で遊ぶ子どもの数	その他	×	×	ウ	自然環境の保全には直接結びつかない。		
37	川に上ってくる鮭の数	その他	△	×	ウ	数値の把握が困難である。		
38	川に上ってくる鮭の産卵数	その他	△	×	ウ			
39	環境保護活動への世代別参加者数(次世代へ引継ぐ)	その他	◎	△	ウ	「環境(保護)活動」の定義等について精査を行いながら指標化について検討したい。		
40	教育機関で実施される自然体験・環境教育の件数及び参加者数	その他	◎	◎	イ	当該施策に係る3つの基本事業の成果指標として採用する。		
41	環境保護地区でのゴミ投棄件数、ゴミの重量	その他	△	×	ウ	自然環境の保全には直接結びつかず、数値の把握も困難である。		

【記入要領】

1) A~C欄

A欄 施策の達成度を測る指標として有効か	B欄 数値の把握は技術的に容易か	C欄 総合評価
◎：有効である △：有効だが現行の成果指標より効果は低い ×：効果は低い	◎：業務において把握が可能 △：調査や照会が必要になるが把握は可能 ×：把握困難	ア：成果指標として採用可能 イ：アイデアを活かしながら、修正を加えた上で成果指標として採用可能 ウ：成果指標として採用困難 エ：同趣旨の事項を他の施策等の成果指標として採用している

2) 「特記事項」欄

C欄の内容	「特記事項」に記入する内容
アの場合	施策・基本事業・事務事業のいずれの成果指標とするか
イの場合	修正後の成果指標名、施策・基本事業・事務事業のいずれの成果指標とするか
ウの場合	評価の理由(特にA欄・B欄で◎・△としたにもかかわらず採用困難な場合)
エの場合	該当する施策等名

市民ワークショップで提案された成果指標(第一次検討表)

施策名	適正な土地利用の推進			現行 成果 指標	① 市域における都市計画区域の割合 ② 市域における農用地区域の割合 ③ 市域における森林区域の割合 ④ 市街化区域における土地利用促進割合	施策統括 マネー ジャー	高橋都市整備部次長	
対象	都市計画区域, 農用地区域, 森林区域	意図	総合かつ計画的に土地利用される					
ワークショップで提案された成果指標				付箋 番号	A 有効性	B 技術性	C 総合評価	特記事項
1	住民の満足度 (市民窓口でアンケート)			①	×	◎	エ	施策「快適な居住環境の実現」との関わりが深く、またこの施策においては毎年市民アンケートで市民満足度を確認していることから、この推移の把握によりカバーしたい。
2	徒歩圏内に買い物ができる施設があると答えた割合			③	×	△	ウ	商業・サービス業の振興との関わりが深いことから、当該施策の成果指標としての有効性は低い。
3	高齢者のみの世帯で、日用品を購入できる店舗から1,000m以内に住んでいる割合			③	×	×	ウ	
4	中心市街地に公共交通利用で30分以内に行ける人の割合			⑦	×	△	ウ	交通環境の構築との関わりが深いことから、当該施策の成果指標としての有効性は低い。
5	土地利用の規制がある場所について、色塗りで各家庭に配布した件数			⑨、 ⑩	◎	◎	イ	事務事業「地域地区見直し事務」に係る成果指標のアイデアとして採用する。
6	ガス管が通っている割合			⑮	×	△	ウ	適正な土地利用の観点からは有効性が低い。
7	都市下水と農業集落排水のどちらにも入れなかった箇所の普及促進率			⑯	×	◎	ウ	下水道事業との関わりが深いことから、当該施策の成果指標としての有効性は低い。
8	人口一人当たりの施設数			⑰	×	◎	ウ	教育施策との関わりが深いことから、当該施策の成果指標としての有効性は低い。
9	施設入所を希望する者に対する施設の充足率			⑱	×	◎	ウ	福祉施策との関わりが深いことから、当該施策の成果指標としての有効性は低い。
10	通学路(小中等)の防犯灯の未設置箇所(特に農用地区域)の解消率			⑰	×	×	ウ	安全対策との関わりが深いことから、当該施策の成果指標としての有効性は低い。
11	小学生の少人数学級の普及割合			⑰	×	◎	ウ	教育施策との関わりが深いことから、当該施策の成果指標としての有効性は低い。
12	景観の満足度(アンケート)			⑲	×	◎	エ	施策「魅力ある都市景観の形成」との関わりが深く、またこの施策においては毎年市民アンケートで市民満足度を確認していることから、この推移の把握によりカバーしたい。
13	林業の従事者数			⑳	×	◎	ウ	農林施策との関わりが深いことから、当該施策の成果指標としての有効性は低い。
14	空き家数			21	△	×	ウ	データの把握が困難である。
15	空き家の活用事例数			21	◎	◎	イ	事務事業「盛岡市郊外住宅地活性化事業」に係る成果指標のアイデアとして採用する。
16	管理の担い手がいない土地について、持ち主を探して管理するよう指導した件数			21	×	◎	ウ	安全・防犯対策との関わりが深いことから、当該施策の成果指標としての有効性は低い。
17	開発によって生じた残地等の解消率			22	△	◎	エ	現行成果指標「④市街化区域における土地利用促進割合」の推移の把握によりカバーしたい。

【記入要領】

1) A~C欄

A欄 施策の達成度を測る指標として有効か	B欄 数値の把握は技術的に容易か	C欄 総合評価
◎：有効である	◎：業務において把握が可能	ア：成果指標として採用可能
△：有効だが現行の成果指標より効果は低い	△：調査や照会が必要になるが把握は可能	イ：アイデアを活かしながら、修正を加えた上で成果指標として採用可能
×	×	ウ：成果指標として採用困難
		エ：同趣旨の事項を他の施策等の成果指標として採用している

2) 「特記事項」欄

C欄の内容	「特記事項」に記入する内容
アの場合	施策・基本事業・事務事業のいずれの成果指標とするか
イの場合	修正後の成果指標名、施策・基本事業・事務事業のいずれの成果指標とするか
ウの場合	評価の理由(特にA欄・B欄で◎・△としたにもかかわらず採用困難な場合)
エの場合	該当する施策等名

市民ワークショップで提案された成果指標(第一次検討表)

施策名	いつでも信頼される上水道事業の推進			現行 成果 指標	①上水道普及率 ②水道管耐震化率			施策統括 マネージャー	武石上下水道部次長
対象	上水道施設, 利用者	意図	安全な水が安定的に供給される		A 有効性	B 技術性	C 総合評価		
ワークショップで提案された成果指標				付箋 番号				特記事項	
1	アンケート「水道水をおいしいと答えた人の割合」			②	×	△	ウ	主観的な要素が影響するので、おいしい水の定義は難しい。	
2	市民アンケート「盛岡の水道水を安心、信頼して飲んでいる」と答えた人の割合			②	◎	△	イ	当該施策の成果指標のアイデアとして採用し、水道水の信頼度を問う市民アンケートを実施する。	
3	水道使用の調査(浄水器, 市販のミネラル, 水道水使用) ※水道水をそのまま飲んでいる人の割合を調査することで水道水への信頼度を把握			⑭	◎	△			
4	断水時間			③	×	△	ウ	工事による計画的断水が主であり、指標としての有効性は低い。	
5	災害時の給水確保率(何日持つか?)			③	×	◎	ウ	配水池は配水区域の12時間分を確保しており、数値の変動はほとんどない。	
6	河川の汚濁等に対する対応率			③	×	◎	ウ	河川の汚濁等に係る対応は基本的に全て実施しているため、指標としての有効性は低い。	
7	水源の各河川の水量			⑤	×	△	ウ	取水については、4つの河川において相互に対応しており、河川の水量不足を原因とする給水停止の恐れは極めて少ないことから、指標としての有効性は低い。	
8	漏水の件数 月単位又は年単位			⑦	△	◎	ウ	水の安定・安全供給の観点からは、現行指標より有効性が低い。	
9	漏水率			⑦	△	◎			
10	水道管の更新率			⑩	△	◎			
11	川縁のゴミの量減少(kgであらわす)			⑮	×	×	ウ	水の安定・安全供給の観点からは有効性が低い。	
12	浄水場を見学した市民の数			⑯	△	◎	ウ	水の安定・安全供給の観点からは、現行指標より有効性が低い。	
13	水道見学会の参加者数			⑯	△	◎	エ	事務事業「水道施設見学会関係事務」の成果指標として「水道施設見学会参加者数÷盛岡市の人口」を採用している。	
14	植樹 見学者数			⑯	×	×	ウ	水源涵養林の植樹会等は実施していない。	
15	盛岡の水道水の全国ランキング			⑲	×	×	ウ	データの把握が困難である。	
16	水道局ホームページのアクセス件数			⑲	△	◎	エ	事務事業「上下水道局ホームページ作成事務」の成果指標として「年間トップページアクセス件数」を採用している。	
17	情報開示件数			⑲	×	◎	ウ	水の安定・安全供給の観点からは有効性が低い。	
18	苦情件数			21	×	◎	ウ		
19	苦情対応にかかった時間			21	×	×	ウ	時間の把握が困難である。	

【記入要領】

1) A~C欄

A欄 施策の達成度を測る指標として有効か	B欄 数値の把握は技術的に容易か	C欄 総合評価
◎：有効である △：有効だが現行の成果指標より効果は低い ×：効果は低い	◎：業務において把握が可能 △：調査や照会が必要になるが把握は可能 ×：把握困難	ア：成果指標として採用可能 イ：アイデアを活かしながら、修正を加えた上で成果指標として採用可能 ウ：成果指標として採用困難 エ：同趣旨の事項を他の施策等の成果指標として採用している

2) 「特記事項」欄

C欄の内容	「特記事項」に記入する内容
アの場合	施策・基本事業・事務事業のいずれの成果指標とするか
イの場合	修正後の成果指標名、施策・基本事業・事務事業のいずれの成果指標とするか
ウの場合	評価の理由(特にA欄・B欄で◎・△としたにもかかわらず採用困難な場合)
エの場合	該当する施策等名